

産地パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:計画策定主体:鹿屋市鹿屋地域農業再生協議会)(鹿児島県)

取組の概要

取組の概要 : 加工・業務用野菜産地の形成
計画作成主体 : 鹿屋市鹿屋地域農業再生協議会
対象品目 : キャベツ、葉ねぎ、根深ねぎ
主な取組主体 : 有限会社サンフィールズ
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
助成金の活用 : 整備事業(集出荷予冷施設)
状況

ポイント

【取組の主題(テーマ)及び課題】

実需者から周年出荷に加え、定価・定品質・定量での出荷を強く求められているが、当産地では予冷・貯蔵が大きな課題となり、加工・業務用への転換が進めにくい状況である。

【革新的な方策(産地イノベーション)】

集出荷予冷施設を整備することで、近隣農家との連携強化を図り、出荷物の安定供給により、実需者のニーズに的確に答えられる産地を目指す。

地区の概要

鹿児島県
鹿屋市
東原地区



推進体制

地域の関係者(大隅地域振興局、鹿屋市、鹿屋市農林技術協会)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 周年出荷を目指した栽培管理
- 集出荷施設を拠点とした生産者間の連携強化
- 計画的な安定供給による契約販売の拡大

取組成果

【事業実施による直接効果】

集出荷予冷施設の整備により、契約先の需要に応じた農産物の安定供給が図られた。

【事業実施による間接効果】

- ① 中心的経営体への農地集積が進み、経営面積が拡大した。
- ② 農産物の安定供給により、契約先からの需要が高まり、契約数量が増加した。



販売総額が
95%増加
(達成率163%)

